

2026 年 8 月

ポジティブ・インパクト・ファイナンスご利用事業者の
サステナビリティ経営への取組状況およびモニタリング結果について

滋賀銀行 営業統轄部 ESG ファイナンスチーム
しがぎん経済文化センター 産業・市場調査部

当行のポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「PIF」という）は、2021 年 9 月の取扱開始以来、地場企業をはじめとして累計で 10 先の事業者にご利用いただいております。当行は各事業者との丁寧な対話を通じて、ロジックモデルによる分析やインパクトレーダーを活用し、事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブな影響およびネガティブな影響）の特定、分析および評価を実施しています。その中で設定された KPI は、社会課題の解決に向けた自社製品の開発や販売、温室効果ガス削減、人的資本経営や社会貢献活動への取り組みなど多岐にわたっています。また、各 KPI に基づく取組状況に関しては、インパクトの状況を重視し、モニタリングなどを通じた対話を継続しております。

今回、2025 年度にモニタリングを実施した 5 先の事業者では、以下のような SDGs17 目標に取り組んでおられます。特に、「8. 働きがいも経済成長も」「12. つくる責任 つかう責任」「13. 気候変動に具体的な対策を」などの目標に関連する KPI が多く設定されています。また、各社レポートの通り、各々の KPI に関する取り組みが概ね順調に進捗していることを確認しました。

PIF は、企業の事業活動による環境や社会へのポジティブな影響を最大化し、ネガティブな影響を最小化することで、持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。今後も、当行は対話と伴走支援を通じて、各事業者、そして社会全体の持続可能性の向上に努めてまいります。

ポジティブ・インパクト・ファイナンス 目標項目と達成状況



お取引先名	株式会社オーケーエム （下記レポートは 2025 年 6 月に実施したモニタリングに基づくものです。）
株式会社オーケーエム（以下、「同社」という。）は、4 つのインパクトテーマについて KPI を設定し、取り組みを進めている。 「脱炭素社会への貢献」のテーマでは、バルブの「LNG（液化天然ガス）燃料船への導入隻数」を KPI に設定している。2024 年度は 12 隻（累計 35 隻）を受注し、2024 年度までの累計目標（20 隻）を上回る結果となった。国際海運業界では、脱炭素化の流れを背景に、重油から LNG への燃料転換や、重油と LNG を使い分けるデュアルフューエル船の需要が拡大し、その流れを受けて LNG の需要が高まっている。 「環境負荷低減」のテーマでは、「船舶排ガス用バルブの導入隻数」と「CO₂（二酸化炭素）排出量削減率」の 2 つを KPI に設定している。船舶排ガス用バルブは、大気汚染物質の除去に寄与する製品として重要な役割を担っており、補機エンジン向け需要の増加を背景に、販売隻数は大幅に増加した。同社の CO₂排出量については、電力排出係数の上昇と生産量増加の影響により増加したものの、空調設備の更新をはじめとした省エネ対策を進め、CO₂排出量削減を進めている。 「豊かな心を持つ社員の創造」のテーマでは、「男女間賃金格差（男性賃金を 100 とした場合の女性賃金比率）」、「女性管理職比率」、「男性育児休業取得率」、「階層別研修の受講者数・受講時間」の 4 つを KPI に設定している。男女間賃金格差は、若手女性社員の採用増加を背景に、70.7%となり格差は拡大し、目標水準を下回った。女性管理職比率については、女性社員の採用・育成を通じて中長期的な改善に取り組んでいる。男性の育児休業取得率は、66.7%であったものの、今後は対象者全員の取得を目指す方針を明確にしている。社員教育については、管理職向けなど階層別研修を拡充し、受講者数および受講時間は大きく増加した。自己申告書を通じた社員の声の把握も行い、多様な人材が安心して働ける職場環境づくりを進めている。 「地域社会との共存共栄」のテーマでは、「地域貢献活動の充実と定着化、次世代教育の実施」を KPI に設定している。滋賀県内での清掃活動への参加、産業支援イベントや大学での講義登壇、学生向けインターンシップの実施などを通じ、地域産業の理解促進と人材育成に継続的に取り組んでいる。	

お取引先名	シン・エナジー株式会社 （下記レポートは 2026 年 2 月に実施したモニタリングに基づくものです。）
シン・エナジー株式会社（以下、「同社」という。）は、3つのインパクトテーマについて KPI を設定し、取り組みを進めている。 「エネルギー循環圏の実現」のテーマでは、「地域の事業体と共同で実施する再生可能エネルギー発電所の建設件数および地域新電力プロジェクトの組成件数」を KPI に設定している。対象期間においては、設定した年間目標をすべて達成し、実績件数は目標と同水準で推移している。風力、バイオマス、太陽光を中心とした再生可能エネルギー発電プロジェクトや地域新電力事業を全国各地で展開しており、エネルギーを単に供給するにとどまらず、雇用創出や地域内経済循環の促進といった波及効果も生んでいる。最終年度に向けては、さらなるプロジェクトの積み上げにより、持続可能な地域モデルの横展開を進めていく方針である。 「脱炭素社会への貢献」のテーマでは、「再生可能エネルギーによる発電容量（自社およびグループ会社で所有する発電所の容量）」を KPI に設定している。対象期間中の発電容量は、各年度において目標値を上回る実績となり、計画を上回るペースで再生可能エネルギー電源の開発が進んでいる。自社およびグループ会社が保有する発電所の容量拡大は、日本の電源構成の中で大きな割合を占める化石燃料由来電力の代替につながっている。 「環境リテラシーの向上」のテーマでは、「自社が企画する環境啓発イベントへの参加者数」を KPI に設定している。2025 年度は「持続可能なまち」絵画コンテストを開催しており、参加者は 108 人と目標の 50 人を大きく上回っている。特に、子どもや地域住民を対象とした環境をテーマとする企画は、再生可能エネルギーや持続可能な地域づくりについて考えるきっかけを提供している。こうした活動は、再生可能エネルギー事業に対する社会的理解の醸成に寄与するだけでなく、地域と長期的な信頼関係を築く基盤としても重要な役割を果たしている。	

お取引先名	株式会社たねや (下記レポートは 2025 年 7 月に実施したモニタリングに基づくものです。)
株式会社たねや（以下、「同社」という。）は、4 つのインパクトテーマについて KPI を設定し、取り組みを進めている。 「自然と共生するお菓子づくり」のテーマでは、「生産者、製造工場との対話数」を KPI に設定している。およそ 1,000 社ある取引先のうち、主原料を取り扱う取引先を中心に対話を実施している。サプライチェーンを通じた持続可能な農業の促進を目指し、まずは、同社の考えを取引先へ丁寧に伝えることを心掛け、取引先の労働環境、品質面、地球環境および地域社会への貢献に対する取り組みについて対話を行っている。取引先への対応は管理職 3 名体制で行っており、2025 年秋には 100 社との対話を完了する予定である。これらの取り組みを通じて、小豆皮の再利用やリサイクル可能な商材に関する提案を取引先から受けるなど相互理解の深化が確認されている。 「地域とつながる商い」のテーマでは、「ラ コリーナへの来場者数」を KPI に設定している。2024 年の来場者数は 232 万人となった。2024 年はフードコートエリアの改装工事を実施し、改装後はセルフオーダーシステムの導入により、待ち時間の短縮およびスタッフの省力化が図られている。また、ラ コリーナで開催した非営利のイベントやワークショップには、延べ 853 名が参加した。ヨシの保全を目的としたヨシ刈りや、ヨシを活用した松明制作、ラ コリーナのコンセプトである「自然に学ぶ」を実践する田植えや稲刈り、生き物観察会などの取り組みを継続して実施している。この活動は、ラ コリーナを拠点とした地域課題への取り組みや自然資本の活用を進展させるとともに、地域文化の継承や、生態系/自然との共生の実現に資する取り組みとして位置づけられている。 「多様な人材の活躍」のテーマでは、「女性の管理職比率」を KPI に設定している。本年の実績は 55%となり、目標の 50%を上回る進捗となっている。全従業員数 1,033 名のうち、女性従業員数は 784 名、女性管理職数は 57 名となっている。働きやすい環境づくりや多様な人材の活躍を目的として「しあわせ推進室」を中心に各種施策を実施している。推進室には約 10 名の相談員が在籍し、働き方、育児、介護等に関する相談対応や、関係部署との連携を行っている。また、従業員本人のみならず、その周囲を含めた支援を重視した取り組みが進められている。 「環境への配慮」のテーマでは、2 つの KPI を設定している。「GHG 排出量（Scope1、Scope2）」では、2024 年度の排出量は 6,509t-CO₂となった。既にラ コリーナの電力は再生可能エネルギーへ切り替えており、今後も新規施設や設備において、省エネルギー、創エネルギーの取り組みを進めていく方針である。また、Scope 3 の算定についても概ね完了しており、サプライチェーン全体での脱炭素に向けた取り組みを段階的に進めていく考えである。「食品廃棄物の再生利用率」では、2024 年度の実績は 97.1%となり、目標の 96%を上回る推移となっている。製造過程で発生する規格外ロスの特性（機械、生地、焼成工程等）を把握したうえで、各工房においてロス削減に向けた取り組みを行っている。また、規格外ロスが発生しにくい商品設計や、規格外品のアップサイクルに取り組んでいる。やむを得ず発生するフードロスについては、フードバンクを通じた寄付や飼料としての活用を行っている。	

お取引先名	西川株式会社 （下記レポートは 2025 年 4 月に実施したモニタリングに基づくものです。）
西川株式会社（以下、「同社」という。）は、4 つのインパクトテーマについて KPI を設定し、取り組みを進めている。 「快適な睡眠による人々の健康」のテーマでは、3 つの KPI を設定している。「眠りのプロフェッショナル人材の育成人数」では、厚生労働省が認定する社内検定の合格者数が 2025 年 1 月時点で累計 79 名となり概ね目標通りに進捗しており、これらの取り組みは販売員の専門性向上やキャリア形成を通じて、顧客への適切なサービス提供に資するものとして位置づけられている。「ねむりの相談所の拠点数」は、直営店およびチェーン店の双方で展開が進み、117 拠点まで増加した。導入店での運営状況や成功事例などを検証し、新規導入を進めている。「西川チェーンの加盟店数」は 354 店となり、地域密着型の販売体制の維持・強化とチェーン店間の連携強化に向けた取り組みが継続されている。 「睡眠改善による経済効果」のテーマでは、3 つの KPI を設定している。「ちょっと寝ルーム[®]の導入件数」は、当年度 2 件、累計 11 件と順調に推移している。個別企業に加えオフィスビルへの導入を進めることで、幅広い利用機会を創出し、仕事へのパフォーマンス向上を図っている。「快眠セミナーの実施回数」は累計 131 回となり、目標水準を上回る実施状況となった。企業や教育機関等を中心に実施され、睡眠に関する理解促進を通じて、参加者の生活習慣の改善に役立つ取り組みとして位置づけられている。「睡眠改善プログラムの実施回数」については、2025 年より本格的にプログラムの稼働を開始しており、当年度は 6 件を実施した。導入先企業の状況や対象者一人ひとりに応じたプログラム提供を行っている。 「環境配慮への取り組み」のテーマでは、2 つの KPI を設定している。「不要となった羽毛ふとんの回収枚数」は当年度 49,104 枚と目標を大きく上回る進捗となり、資源循環を目的とした取り組みが継続されている。「羽毛ふとんのリフォーム件数」は当年度 9,493 件となった。また、同社ではその他にもグリーンダウンプロジェクトを通じたリサイクルの推進や、羽毛洗浄工程における水使用量削減など、環境負荷低減に向けた取り組みが進められている。 「責任あるサプライチェーンの構築」のテーマでは、「取引行動規範順守宣言書の提出率」を KPI として設定している。環境および労働に関する配慮を含む同社の考え方について、取引先との対話を通じた理解促進が図られており、提出の取り組みが進展している。	

お取引先名	大原薬品工業株式会社 （下記レポートは 2025 年 6 月に実施したモニタリングに基づくものです。）
大原薬品工業株式会社（以下、「同社」という。）は、2 つのインパクトテーマについて KPI を設定し、取り組みを進めている。 「患者さまとその家族の QOL 向上」のテーマでは、「開発パイプラインの承認件数」と「途上国等のグローバルヘルス活動の取組状況」の 2 つを KPI に設定している。開発パイプラインについては、競合上の観点より具体的な内容は言及しないが、計画通り研究開発が進捗していることを確認している。グローバルヘルス活動においては、アフリカ地域の人々が最新のヘルスケア製品並びにヘルスケアサービスにアクセス可能となることを目的とし、Fidson（ナイジェリア製薬会社）と戦略的資本・業務提携契約を締結しており、医薬品・医療機器の供給ネットワーク構築を進めている。 「環境負荷の低減」のテーマでは、「温室効果ガス排出量（原単位）の削減率」を KPI に設定している。2024 年度の排出量（原単位）は前年度比 19.7%増加した。その主な要因としては、電力排出係数の上昇に加え、原材料価格高騰等による生産数量の減少が影響した。 一方で、エネルギー使用量そのものの削減を目的とした取り組みは推進しており、生産状況に応じた空調機設備の適切な運用などを継続実施している。また、過年度に実施の経年劣化した機器の更新などの効果も反映した結果、エネルギー使用量は前年度比で減少しており、温室効果ガス排出量削減に向けた取り組みは着実に進展している。	